



厳選された講師陣が一人ひとりの生徒を中心にチームを組み、全力で生徒を支え応援する

整っているかどうか」特に、「各予備校が公表している医学部の合格実績のデータの詳細」です。合格実績の公表の仕方は予備校によって、大きく異なります。たとえば、医学部合格者のデータに、医学科だけでなく、薬学科や歯学科など他学科を含めている場合もあり

ます。また、一次合格者の実績を最終合格として公表したり、過去数年にわたっての延べ人数だけを表記したりしているケースも少なくありません。直接足を運んだ際には、「その年度に、何名が在籍していて、医学科に最終合格したのは何名なのか」など、具体的に質問するといいでしょ。――「医学部に合格できる学習環境が整っているかどうか」は、どこで判断すればよいでしょうか。自分の現状と目標をしっかりとふまえたうえで、予備校の指導体制を確認することです。授業料は予備校選択の目安の一つになりますが、安いからといって、安易に決めてしまうのは危険です。たとえば、一方通行型の集団授業を中心に行っているような大手予備校の場合、授業料は抑えられます。しかし、医学部ですから、受験では相応の学力が求められます。すでに実力が伴っているような生徒であれば、大人数で切磋琢磨することにより、成績が伸びるかもしれません。ただし、学力がまだ十分に備わっていない生徒は埋もれてしまう恐れがあります。さらに、大人数制では個別の質問に対応してもられない状況に陥りがちです。当然ながら、サポート体制が充実した少人数制の予備校のほうが、生徒のフォローも万全にできるでしょう。

一人の生徒につき、各教科の講師陣と担任講師、担当職員、校舎長の7、8名がチームになってサポートしています。各教科の講師は、自分の教科だけを見る訳ではありません。受験は、特定の教科だけでなく、総合点で合格最低点をクリアする必要があります。そのため、講師たちは定期的にチーム会議を開き、生徒情報を共有して今後の指導方針を決定していくのです。たとえば、英語が足を引っ張っている生徒の場合、その成績を伸ばすために、チームで話し合ったり、他教科の勉強や課題の量を減らしたり、内容を調整したりします。そして、議論を重ねて、生徒に合った大学を選び、必要な対策を取っていきます。

声が寄せられ、そこにはたくさんの方の感謝の気持ちがつづられています。ぜひご覧になってください。特に、保護者からの感謝の声は普通は中々もらえないと思います。ただ単に合格しただけでは、わざわざ文章に残すとは考えづらいからです。また、合格体験記を掲載している予備校はいくつもあります。その内容をよく読むことも大切です。内容次第で信頼できる予備校かどうかをぜひ判断してください。

11

――予備校選びのポイントを教えてください。――
まずは直接足を運んで学習環境を確認し、気になることについて、納得がいくまで説明を求めることが大事です。着目すべきは「医学部に合格できる学習環境が整っているかどうか」特に、「各予備校が公表している医学部の合格実績のデータの詳細」です。合格実績の公表の仕方は予備校によって、大きく異なります。たとえば、医学部合格者のデータに、医学科だけでなく、薬学科や歯学科など他学科を含めている場合もあり

――「医学部に合格できる学習環境が整っているかどうか」は、どこで判断すればよいでしょうか。――
自分の現状と目標をしっかりとふまえたうえで、予備校の指導体制を確認することです。授業料は予備校選択の目安の一つになりますが、安いからといって、安易に決めてしまうのは危険です。たとえば、一方通行型の集団授業を中心に行っているような大手予備校の場合、授業料は抑えられます。しかし、医学部ですから、受験では相応の学力が求められます。すでに実力が伴っているような生徒であれば、大人数で切磋琢磨することにより、成績が伸びるかもしれません。ただし、学力がまだ十分に備わっていない生徒は埋もれてしまう恐れがあります。さらに、大人数制では個別の質問に対応してもられない状況に陥りがちです。当然ながら、サポート体制が充実した少人数制の予備校のほうが、生徒のフォローも万全にできるでしょう。

一人の生徒につき、各教科の講師陣と担任講師、担当職員、校舎長の7、8名がチームになってサポートしています。各教科の講師は、自分の教科だけを見る訳ではありません。受験は、特定の教科だけでなく、総合点で合格最低点をクリアする必要があります。そのため、講師たちは定期的にチーム会議を開き、生徒情報を共有して今後の指導方針を決定していくのです。たとえば、英語が足を引っ張っている生徒の場合、その成績を伸ばすために、チームで話し合ったり、他教科の勉強や課題の量を減らしたり、内容を調整したりします。そして、議論を重ねて、生徒に合った大学を選び、必要な対策を取っていきます。

声が寄せられ、そこにはたくさんの方の感謝の気持ちがつづられています。ぜひご覧になってください。特に、保護者からの感謝の声は普通は中々もらえないと思います。ただ単に合格しただけでは、わざわざ文章に残すとは考えづらいからです。また、合格体験記を掲載している予備校はいくつもあります。その内容をよく読むことも大切です。内容次第で信頼できる予備校かどうかをぜひ判断してください。

11

合格実績や学習環境について 詳細をしっかりと確認する

――予備校選びのポイントを教えてください。――
まずは直接足を運んで学習環境を確認し、気になることについて、納得がいくまで説明を求めることが大事です。着目すべきは「医学部に合格できる学習環境が整っているかどうか」特に、「各予備校が公表している医学部の合格実績のデータの詳細」です。合格実績の公表の仕方は予備校によって、大きく異なります。たとえば、医学部合格者のデータに、医学科だけでなく、薬学科や歯学科など他学科を含めている場合もあり

――「医学部に合格できる学習環境が整っているかどうか」は、どこで判断すればよいでしょうか。――
自分の現状と目標をしっかりとふまえたうえで、予備校の指導体制を確認することです。授業料は予備校選択の目安の一つになりますが、安いからといって、安易に決めてしまうのは危険です。たとえば、一方通行型の集団授業を中心に行っているような大手予備校の場合、授業料は抑えられます。しかし、医学部ですから、受験では相応の学力が求められます。すでに実力が伴っているような生徒であれば、大人数で切磋琢磨することにより、成績が伸びるかもしれません。ただし、学力がまだ十分に備わっていない生徒は埋もれてしまう恐れがあります。さらに、大人数制では個別の質問に対応してもられない状況に陥りがちです。当然ながら、サポート体制が充実した少人数制の予備校のほうが、生徒のフォローも万全にできるでしょう。

一人の生徒につき、各教科の講師陣と担任講師、担当職員、校舎長の7、8名がチームになってサポートしています。各教科の講師は、自分の教科だけを見る訳ではありません。受験は、特定の教科だけでなく、総合点で合格最低点をクリアする必要があります。そのため、講師たちは定期的にチーム会議を開き、生徒情報を共有して今後の指導方針を決定していくのです。たとえば、英語が足を引っ張っている生徒の場合、その成績を伸ばすために、チームで話し合ったり、他教科の勉強や課題の量を減らしたり、内容を調整したりします。そして、議論を重ねて、生徒に合った大学を選び、必要な対策を取っていきます。

声が寄せられ、そこにはたくさんの方の感謝の気持ちがつづられています。ぜひご覧になってください。特に、保護者からの感謝の声は普通は中々もらえないと思います。ただ単に合格しただけでは、わざわざ文章に残すとは考えづらいからです。また、合格体験記を掲載している予備校はいくつもあります。その内容をよく読むことも大切です。内容次第で信頼できる予備校かどうかをぜひ判断してください。

11



現役生だけでなく保護者の方も参加した校内医学部入試セミナーの様子

数年前に比べると、受験者数が減少し、競争率に落ち着きを見せている医学部入試。しかし、「だからこそ、これまで以上に予備校選びが大きなカギとなる」と大手医学部予備校・富士学院の坂本友寛院長は警鐘を鳴らす。その理由や、予備校選びの注意点、理想的な学習環境や指導体制などについてアドバイスをいただいた。

自身に合った、 必要な塾や予備校選びが 合格への近道



医学部予備校 富士学院
院長 坂本 友寛 氏

――はじめに、医学部入試の現状について教えてください。――
医学部受験者はここ数年ずっと減少傾向にあります。具体的な数字を見てみると、2022年度の国立大学の医学部志願者数に限っては、前期・後期を合わせて2万2340名と、前年度より457名増えました。が、受験者数は1万3220名で、前年度より442名減少しています。一方、私立大学の医学部では、志願者数・受験者数ともに減少しています。志願者数は9万206名と前年度より954名少なく、受験者数は前年度より1338名少ない8万2816名でした。2022年度は、獨協医科大学と金沢医科大学がそれぞれ受験日を1日増やしたほか、コロナ禍によりひかえていた東京や都市部への受験が復活し、その分受験者が増えたにもかかわらず、受験者数が減っているのが

現状です。しかし、それだけ合格のチャンスが増えているともいえます。特に減少が目立つのは、既卒者の受験者です。少子化の影響もありますが、その他の大きな理由は、長引く新型コロナウイルスやウクライナ情勢など、先行きが不透明な社会にあると考えています。そうした社会に不安を感じれば、安定した場所に身を置きたいと思いい、浪人を回避したくなるものです。そのため、医学部に合格できなかった受験生が浪人をせず、他学部に進学したり別の道に歩むことで、医学部受験生が特に減少しています。そして、この傾向は今後も加速していくことが予想されます。

10

保護者からの感謝の声 (一部抜粋)

埼玉医科大学合格者のお父様

医学部の専門予備校は数多くあります。その中で、富士学院を選んだ理由はいくつかあります。説明会の時に娘に自信をつけさせてくれる言葉をかけていただいたこと。理解できるまでしっかりと教え込むとお話くださったこと。遅い時間まで質問に答えてくれる優秀な先生方。一人暮らしを始める娘を支えてくれる教務課の方たちの安心感を与えてくれる優しい笑顔。女子寮が学院の隣で、設備の整った清潔感ある部屋。説明会を終えて帰宅した時の娘の、安心からくる笑顔は希望にあふれるものでした。富士学院以外の予備校を選択する理由がみつかりませんでした。

入学してからは先生方が熱心に勉強を教えてください、教務課の方たちが折れそうになる心をしっかりサポートしてくださいました。小論文や面接対策も何度も繰り返しいただき、自信をもって試験に臨むことができました。富士学院に入学していなかったらおそらく合格を勝ち取ることは出来なかったと思います。娘を支えてくださった先生方、教務課の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。また、学院内の食堂で栄養価が高くおいしい食事を一日三回作ってくださった厨房の方々にも、とても感謝しております。安心して娘を預けることができました。本当にありがとうございました。

聖マリアンナ医科大学合格者のお母様

富士学院との初めての出会いは娘の高校の医学部進学相談会でした。何もわからないままに出席し、富士学院の情報量の多さに驚いたことを覚えています。現役は通学時間を考えて高校近くの大手予備校へ通わせましたが、そこでは個人面談はなく、受験校の選定も娘と親の希望をもとに決めため、不合格となり浪人生活が始まりました。大手予備校に対する信頼が薄れていたこともあり、富士学院の説明会に再度参加して担当者様とお話をする中で、やはりここだと思い入学を決めました。

富士学院では複数回の面談があり、面談の度に主要科目の担当講師の方々が揃い、娘の弱点を解析し今後どう伸ばしていくかについて詳細に説明してくださいました。最終面談では、娘の強みを全力で活かせる大学をご提案いただき、娘の希望を聞きながら丁寧に受験校を決めていきました。一次試験合格後は、面接練習を繰り返し実施して、様々な角度からの質問に対応できるよう鍛えていただきました。また、富士学院の方々には家庭的な面もありました。娘の些細な悩みにも即座に対応してくださることで、受験前のナイーブな時を問題なく過ごすことができたり、第一希望に不合格となった時には泣き続ける娘に寄り添い励まし続けてくださったり、もう一つの家族がそこにあるようでした。このような雰囲気も富士学院ならではのものだと思います。



2022年度だけでも200名を超える体験記を頂いています。詳しくは、学院公式サイトかパンフレット別冊紙をご覧ください。

高校や大学との連携が予備校としての信頼性を高める

富士学院は、全国の高校や大学

「ゼミ生自立講座」にも参加いただく予定です。



高校の先生方を対象とした校内医学部入試セミナーの様子

とも信頼関係を築いていますね。

はい。現在、高校の進路指導担当の先生方を招いて、「医学部入試研究会」という医学部入試に特化した勉強会を直営校全校舎で開催しています。このほか、医学部合格をめざす高校生を対象にした「校内医学部入試セミナー」も全国の進学校で実施しています。2022年度も、都立日比谷高校や横浜翠嵐高校をはじめ、数多くの高校で開催しました。セミナーでは医学部入試の総括と現状、面接や小論文の重要性、合格のポイントなどのほか、医師の仕事のすばらしさや、やりがいなども伝えていきます。

また、大学からの依頼を受け、オンラインキャンパスや大学の公式サイトなどで、入試問題の過去問解説などを含む「入試対策講座」を行っています。これまで、久留米大学医学部・藤田医

科大学・東海大学医学部・愛知医科大学・昭和大学医学部で実施しました。また、2021年度からは、昭和大学と連携し、医学部・薬学部・歯学部・保健医療学部の4学部の推薦合格者を対象に入学前準備教育も行っています。高校や大学とのこうした信頼関係は、予備校の信頼性を高める重要な要素にもなっていると思います。

最後に、医学部受験を考え、予備校通いを検討している受験生にメッセージをお願いします。

どこの予備校を選ぶかでその後の人生が左右されます。想像していた環境と異なる予備校に通ってしまった、不信感を抱きながら医学部に進学した人と、予備校に感謝の気持ちを持って医学部に進んだケースでは、恐らくその後の人生が大きく変わってくると思います。後者は、医師になったときに、

その感謝の気持ちが患者さんに向けられ、患者さんと良いコミュニケーションがとれる、そういう医師になつてくれるはずですよ。どうか公開された情報だけを鵜呑みにせず、実際に足を運んで、本当に自身ががんばられると思う塾や予備校を見つけてください。

また、医学部受験生は確実に減っています。倍率が減少している今が、医学部合格の最大のチャンスです。

現在、厚生労働省と文部科学省の分科会「医療従事者の需給に関する検討会」で、医学部定員について、人口減少を見据えた議論が交わされています。今後は入学定員を絞られる可能性があります。今後は入学定員を絞られる可能性が大ですが、ここ1〜2年までは定員は、最も医学部に合格しやすいと思います。このチャンスをものにして、最後まで諦めずにがんばってください。